

伊勢湾にアカウミガメがやってくる!



平成26年 三重県北中部における
アカウミガメの上陸と産卵



三重県では志摩半島や熊野灘の沿岸だけでなく、伊勢湾沿岸の砂浜にもアカウミガメが産卵のために上陸しています。『ウミガメネットワーク』の報告によると、26年度には四日市市から津市にかけての砂浜の19か所で上陸・産卵が確認されました(左図)。実はわたしたちにとって、身近な生きものともいえるアカウミガメについて取り上げます。

平成25年8月20日18時頃 鈴鹿市鼓ヶ浦海岸

絶滅危惧種『アカウミガメ』

日本で産卵するウミガメはアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの三種類で、伊勢湾の砂浜に産卵しにくるのはアカウミガメだけです。体背面は赤褐色で、甲長70〜100センチ、体重は100キロを超えるものもあります(三重県レッドデータブック2005より)。亜熱帯から温帯にかけての世界の海に分布していて、一般に貝類やエビなどの甲殻類を食べ、顎の骨格が発達しています。

アカウミガメは三重県では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定され、環境省のレッドリストにも掲載されており、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いとされています。

地域と連携したネットワーク

『ウミガメネットワーク』代表の米川さんがウミガメに関心を持ったのは、平成17年に津市河芸町の砂浜で子ガメが砂から脱出し、海へ帰るのを見たことがきっかけです。

子ガメがクロールで泳ぐように砂浜を前進する姿が力強く、ウミガメが大好きになりました。それからはシーズン時に多い時は、朝・昼・晩の一日三回、砂浜に足を運び、ウミガメを追いかける日々が始まりました。

そして、アカウミガメの保護と産卵場所である砂浜の保全を目的に、平成26年に『ウミガメネットワーク』を立ち上げました。四日市市から津市の広範囲におよぶ伊勢湾の海岸線を調査するには、多くの協力が必要です。そこで北中部にわたる海岸線をフィールドに活動する環境保全団体をはじめ、地域住民や釣り人呼びかけ、より多くの情報を集めています。

今回は、『ウミガメネットワーク』の地域と連携した保護啓発活動についてご紹介します。また、アカウミガメを取り巻く伊勢湾の自然環境についてもお話を伺いました。

【お話を伺った人】



『ウミガメネットワーク』

代表 米川 弥寿代さん

『ウミガメネットワーク』とは

- ・ウミガメの足跡を発見した時に他の調査機関と連携しながら調査します
- ・ウミガメの情報を発信します
- ・ウミガメや環境に関してみんなで学ぶ学習会や出前講座を行います
- ・海岸清掃に協力します
- ・ウミガメの産卵や子ガメの地上脱出が無事に行われるよう環境保全に努めます

『ウミガメネットワーク』協力団体

- ・高松干潟を守ろう会(川越町)
- ・四日市ウミガメ保存会(四日市市)
- ・楠地区まちづくり協議会(四日市市)
- ・大瀬古町子供と地域の環を育む会(四日市市)
- ・鼓ヶ浦公民館おじさんセミナー(鈴鹿市)
- ・白塚の浜を愛する会(津市)
- ・白塚ウミガメクラブ(津市)
- ・三重県立鷺学校(津市)
- ・ホットな阿漕浦ネットワーク(津市)